

令和元年度(2019)ポーランド・クラクフにおける 文化財保存技術発信・交流事業について

資料 5

文化財修理センター(仮称)の在り方に関する検討会(第2回)

R4. 8. 10

令和4年8月10日

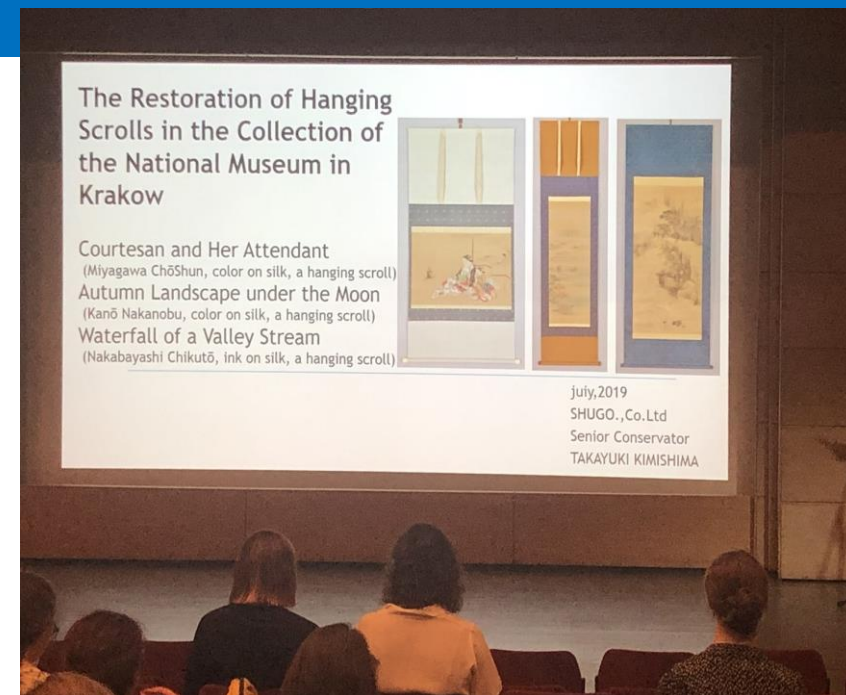
地主智彦(文化庁)

I 実施にいたる経緯

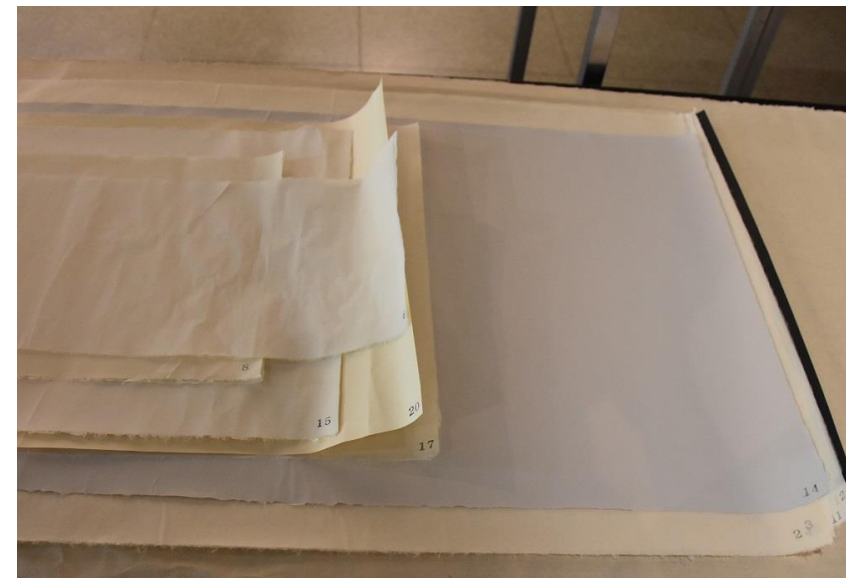
- ・(文化庁)文化財保存技術の保護(1975~)
我が国の良質な伝統的な文化財修理用具・原材料製作技術の継承の一環としての国際情報発信の必要性
 - ・(独)東京文化財研究所「在外日本古美術保存修復協力事業」
(1991~)
平成27年~30年 日本絵画3幅(ポーランド国立クラクフ博物館所蔵)の保存修理の実施
⇒「日本技術美術博物館 Manggha(以下、マンガ館)」において、国際集会「日本絵画の修復」を企画
- ↓
- ・「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」
(文化庁委託・東文研受託事業)を併せ実施をすることに

○マンガ館

1994年設立、ポーランドにおける日本美術・技術をテーマとした唯一の国立博物館。国立クラクフ博物館の収蔵品であったフェリックス・ヤシェンスキ(愛称「マンガ」)の日本美術コレクションを中核に活動をはじめた。博物館設立は、映画監督アンジェイ・ワイダらの提唱による。建設資金は、日本政府、クラクフ京都財団も支援した。建築設計は磯崎新。



絵画の修復過程の講義



修理材料の展示・解説(修理用和紙)

2 事業の概要

- ・日時 令和元年(2019)7月29日(月) 専門家会議
30日(火) オープンセミナー
- ・会場 マンガ館(クラクフ市)
- ・主催 文化庁、(独)東京文化財研究所、マンガ館
- ・協力 (一社)国宝修理装潢師連盟(以下「連盟」)、(一社)伝統技術
伝承者協会(以下「伝伝協」)、ポーランド国立クラクフ博物館
- ・内容 ①【展示室】修復文化財の展示(作品、工程パネル、道具、見本)
とギャラリートーク
②【講 堂】講演
③【ロビー】実演・体験、展示(実物、ポスター)、動画上映
パンフレット配布
和紙製作 福西正行、福西和紙本舗(実演・体験、展示)
* 専門家へは修復用和紙見本帳(25種入)を配布
金工製作 君嶋真珠、継金属工房(実演、展示)
刷毛製作 田中宏平、小林刷毛製造所(実演、展示)
装潢修理技術 連盟、文化庁、東文研(展示、動画、パンフ)
表具裂 連盟(展示)
装潢修理用具・材料 伝伝協(展示、パンフ)
選定保存技術全般 文化庁、東文研(展示、パンフ)
④【講義室】装潢修理技術ワークショップ



ギャラリートークの様子



修理材料の見本の展示(掛軸の軸首等)

3 内容 ①講演（7月29日、30日、両日とも午前中）

内容 「クラクフの日本美術コレクション」（マンガ館上級学芸員 マウゴジャータ・マルティニーニ）

「在外日本古美術品保存修復協力事業」

（東京文化財研究所文化遺産国際協力センター技術支援研究室長 加藤雅人）

「ポーランド国立クラクフ博物館所蔵掛軸の修復」（株式会社修護常務取締役技師長 君嶋隆幸）（以上7/29）

「文化財保護法と選定保存技術」（文化庁文化財第一課文化財調査官 地主智彦）

「文化財保存技術「装潢修理技術」について」（国宝修理装潢師連盟理事長 山本記子）（以上7/30）

参加 47名（ポーランド23人、日本19人、ベルギー、チェコ、ドイツ、ロシア、スペイン各1人）（7/30）

○アンケート結果より

情報入手手段 東文研からの案内（7人）、友人・同僚からの紹介（7人）、東文研HPなど（2人）、マンガHPなど（2人）

もっとも有用な内容

- ・保存修理に用いられた技術や材料とその理由に関する情報
- ・原材料の流通や必要な道具
- ・近年の日本が直面している文化財保存修理上の課題
- ・日本における保存修理の教育制度、育成制度
- ・日本の歴史、社会変化とその文化財保護への影響に関する簡潔な紹介（日本の文化財保護がこの何世紀の間どのように発展してきたのかを理解する手助けになった）
- ・選定保存技術に関する説明（他の講演、展示との密接な連携でよく理解できた）
- ・様々な種類の紙本・絹本作品に対する修理技術について、より多くの情報が欲しい。
- ・講演の後に参加者が講師に質問をしたり、講演の内容を話し合うのに十分な時間があった点がよかった。

コメント・提案

3 内容 ②実演・体験、展示(実物、ポスター)、動画上映、パンフレットなど配布

内容 和紙製作 福西正行、福西和紙本舗(実演・体験、展示)

＊専門家へは修復用和紙見本帳(25種入)を配布

金工製作 君嶋真珠、継金属工房(実演、展示)、

刷毛製作 田中宏平、小林刷毛製造所(実演、展示)

装潢修理技術 連盟、文化庁、東文研(展示、動画、パンフ)

表具裂 連盟(展示)

装潢修理用具・材料 伝伝協(展示、パンフ)

選定保存技術全般 文化庁、東文研(展示、パンフ)

参加者 7月29日 33人(専門家)

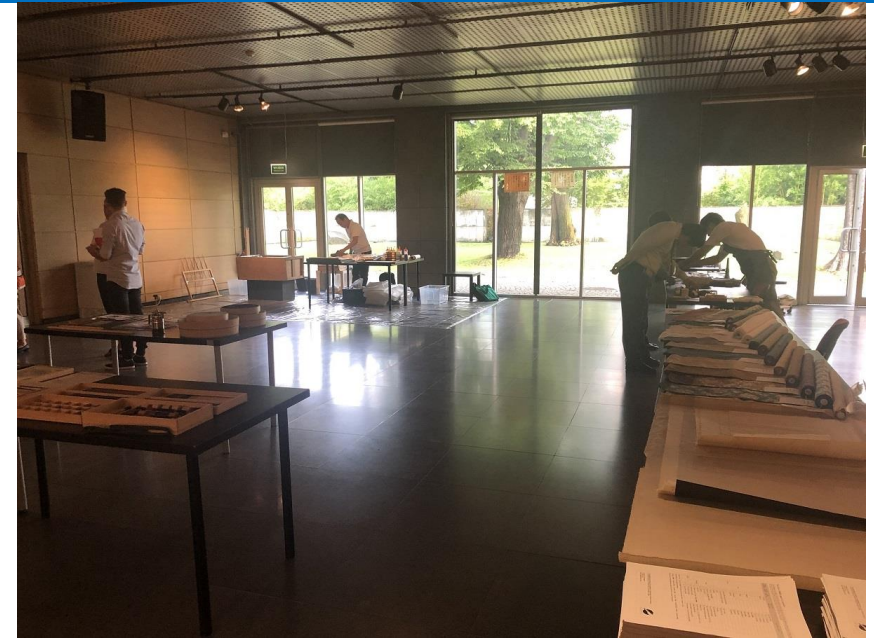
ポーランド22、日本3、ウクライナ2、アメリカ、スペイン、
チェコ、ドイツ、ベルギー、ロシア各1

7月30日 219人(専門家及び一般)

ポーランド168、ウクライナ10、ドイツ6、アイルランド、
ロシア各5、日本4、英国3ほか

○アンケート結果より

- ・実演、展示していた多様な道具や材料は、講演の理論的な部分を理解するのに役立った。
- ・資料の準備、ポーランドへの輸送、旅行手配など大変な作業だったと思う。おかげで非常に多くの優れた専門家がポーランドに来て知識を共有できた。
- ・各展示、実演対象に対する、「素晴らしい」率が多かった順
刷毛(95%)、手漉き和紙体験(7月30日)(86%)、装潢修理、和紙、裂
(共に85%)
(「素晴らしい」、「とても良い」、「良い」、「まあまあ」、「悪い」、無回答のうち)



実演・体験、展示会場のロビー



装潢修理技術の工程紹介動画展示

3 内容 ②実演・体験、展示（実物、ポスター）、動画上映、パンフレットなど配布



和紙抄紙体験（簀・桁で紙を漉く）



刷毛製作実演



和紙抄紙体験（漉いた紙の乾燥）



金工製作実演

3 内容 ③装潢修理技術ワークショップ

7月29日 和紙製フォルダ製作(実演、実習)

国宝修理装潢師連盟主任技師3名担当

内容 和紙の取り扱い、道具・材料の基礎、矩出しなど

参加者 21人

ポーランド14, ウクライナ2, ベルギー、
ドイツ、ロシア、スペイン、アメリカ各1

7月3 和綴和紙見本帳製作(実演、体験)

国宝修理装潢師連盟主任技師3名担当

内容 和紙の取り扱い、和綴じ

参加者 25人

ポーランド19, ベルギー、チェコ、ドイツ、
ロシア、スペイン各1

○アンケート結果より

- ・ワークショップは運営がすばらしく、そして親切で雰囲気よかった。
- ・(全体の感想)
イベントを企画するために注がれた多大な努力からすると、
もっと期間が長いと良かった。



和綴和紙見本帳製作のワークショップ



和綴和紙見本帳製作のワークショップ

①有効な方たちでの修理技術の普及

在外の東洋の美術工芸品の要修理物件に対し、必要十分な修理技術（含用具・原材料）の知識、技術の提供、あるいは人材の養成を行うこと。

・技術の獲得には時間がかかることを踏まえた対応が必要

⇒短期・長期に応じたプログラム構築の必要性

②日本の用具・原材料の有効性の普及

日本の伝統的な用具・原材料の長所について、正しい情報を提供し、美術工芸品等の修理、あるいは保存材料として活用してもらうこと。

・例えば、伝統的な製法による和紙は、東洋書画のみならず、洋画・洋本・染織・その他多くの文化財の保存、修理に有効であり、幅広い活用法が期待される。

・但し、現状では日本にある伝統的な多様な和紙の存在と有効性が十分に知られていない。

③事業継続による信頼の確保、窓口機関の機能強化

（独）東京文化財研究所や（一社）国宝修理装演師連盟の事例にみるように、事業継続による海外諸機関との信頼関係の構築が肝要である。

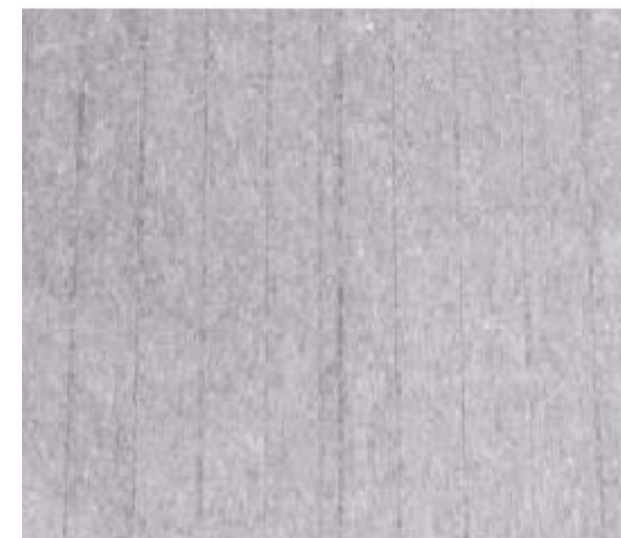
今後、海外への情報発信、海外との交流事業を進めていくうえでは、これまでの実績のある各組織と連携することが効果的であり、同時に海外との窓口となる機関の一層の機能強化が求められる。

・一回性の強い事業は、知識・経験が根付くことが難しいので、継続性が肝要。

・美術工芸品の複数の分野に対応すること、各分野の修理技術、用具・原材料の諸情報を集約、更新し、必要な情報を発信、提供することが求められる。



国宝修理装演師連盟が技術者を派遣する
大英博物館における東洋書画修理の様子



ルーブル美術館で文化財保存用紙として
用いられる、江洲栄貫氏（選定保存技術
保持者）製作の楮紙